

地方小出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

東京堂書店神田本店

★★★

「地方小リトルプレス」売場開設の顛末

文・佐野 衛



当店で、坪内祐さんに棚を作っ
ていただいている、そこに本の補充を
お願いしている。お願いしているが坪
内さんには一切の実入りもない。願
いもさることながら、感謝してもし切
れない。その坪内さんが、書肆アクセ
スの閉店にあたってどうしても残した
い棚があるので、それを引継いでくれ
ないかと話しかけてこられた。その場
で同道させてもらって、アクセスの棚
の指定をお伺いさせていただいた。

書肆アクセス関係の本の注文がある
たびに私はそこに向向いて、在庫を確認
してもらい、ない場合には注文を受け
てもらっていた。始めは現金買いであ
ったが、度重なるにつれて、トーハ
ン帳合の伝票買いにまでこぎつけた。

そんなわけでアクセスの
三人の店員とは顔見知り
になっていた。ことに店長
の畠中さんは、当店の夜の
イベントには時々出席され
ていたので話す機会もあ
った。そのときも畠中さん
がおられたので、これからど
うするかと尋ねたら、別
に決まっていなくてという
ことだったので、当店に
来ていただけないかと打診
してみた。

その後色々とお伺い
があったが、立ち話でその
ときにきていただくこと
に決めてしまった。畠中
さんに来て頂けるという
ことで、私はそうした棚作
りを「ふくろう店」で展開
するつもりだったが、その後

リニューアル計画によって実現しな
くなった。しかし地方・小出版のコー
ナーは本店の方で実現することにな
った。リニューアル計画によって、五
月の半ばにオープンが決まったが、
肝心の畠中さんが都合で四月にな
らないと入社できないという知らせ
を受けていた。

大問題をクリア、後発となったが商品 調達に目算がつく

そのまゝに地方・小出版流通セン
ターから商品を出していただけるの
かという大問題が立ちまはかっ
ていた。私が川上社長と連絡を
とり、当社社長と一緒に伺った
ときには、ほとんど不可能な
状態であった。先行のいくつか

の書店で地方・小出版コーナーの計
画が進んでいて、現在それ以上は作
業上でも無理ということで、全くの
後手にまわった状態であった。年が
明けて一段落したあとで再考しよう
とのご返事であった。様々な困難を
考慮されたことであろう。それでも
川上社長は首をかじげたままだ
った。私は別れ際、川上社長の両
肩にすがって、お願いしますとい
って別れた。年が明けての春先、
再度当店の社長とお伺いした。こ
のときには、作業上直取引はでき
ないが、他の取次を通すなら商品
の手配はしてもよいというご返事
をいただいた。これでなんとか商
品の調達は可能になるという目算
がついたことになる。川上社長の
温情に感謝した。それでもこのま
までは後発という厳しい状況にあ
ることに変わりはない。三度目
にお伺いさせていただいたときに
、川上社長は岡安取締役を伴って
あらわれた。話を交えているうち
に、これで具体的な話に入れる
であろうと勝手に考えて、商品
の仕入や取次の件などを、今後
岡安さんと連絡をとることで解
答を得ることにした。

小出版社の本や、ミニコミ関係の雑誌 は当店の特徴になる

畠中さんの入社は四月、オープン
は五月半ば、彼女はその期間の間
で商品揃えて展示するのは不可能
だといった。やっと商品の調達
の目算が立ったところで、また
また問題がもち上がったのだ。私
はこれまでも不可能という言葉
を聞くたびに、常にその可能性
について考える癖がついている。
そうして、それはできると判断
した。

以前洋書を担当していたとき、
本の仕入は直接エージェントに
向向いて棚から本を選んで仕入
れていた。もちろん海外から送
られてくる新刊案内を見ている
のだが、現物を見るのが最上の

選択だと思っている。今回も出向いて、直接棚から抜いて揃えようと思った。幸いその方面に詳しい担当者も擁しているのだから。岡安さんには三回出向いてすべての仕入をしたいと伝えた。とにかくやってみようということにして、疑念だらけの畠中さんを引っ張って出向くことにした。それまでの間に、彼女の得意なミニコミ関係の雑誌を集めるように要請しておいた。これがこのコーナーのもう一つのキー

ポイントだったからだ。私の目論見では、地方出版社については後発であるが、小出版社や、ミニコミ関係の雑誌は当店の特徴になると踏んでいた。小出版社だからこそそれなりの主張があり、類書もない貴重な書籍を持っているのだ。だから小出版社の本も精力的に集めてみた。こうしてなんとか地方出版社と小出版社の本とミニコミ誌が、オープンに間に合った。

棚の配分や配置はその三部門を考慮

して決めることになる。商品はある程度二人でそろえてみたが、棚作りは、畠中さんに任せることにした。さすがにこの方面に詳しいので短期間で収まった。とはいえ間に合いそうもないところは私も手伝ったのだが、下りてきてみると3階で彼女が叫んでると言う報告を受けた。

「私の棚だけキタナイ」

(さの まもる・東京堂書店神田本店)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『火用心』 ●杉本秀太郎著



江戸中期に呉服商として開業された京都市最大規模の町屋建築に生まれ育ち、フランス文学者である著者。富士正晴、天野忠、山田稔などの良質な文章を読ませてくれる、関西の小さな出版社、編集工房ノアからは、意外にも初めての本。富士正晴との出会いと別れ。遠く離れたフランスでの愛書家宅火災から京都の大火史や自身の幼少時代に思いを馳せる表題作。京都とフランス、文学と

暮らし。淡々と、しかし広いところから細部へ、今日から昔へと想い駆け巡る随筆集。庭の花、特に藤袴を愛で、その蜜をすう蝶を心待ちにする著者。望月通陽の染色による蝶の装幀が美しい。

◆ 2100円・四六判・247頁・編集工房ノア・大阪・2008/5刊・ISBN978-4-89271-167-1

『女性とパワーハラスメント -なぜ起きる、どう対処する』 ●フェミックス編著



バブル時代を経て、大きく変わってきた職場環境。リストラが世間を騒がせ始めた頃からパワーハラスメント(パワハラ:職場での人権侵害・いじめ)が表面化し始めた。パワハラは誰にでも起こりうるのだが、なお根強い女性差別から、女性の方がより不合理な扱いを受けてきたと思われる。本書は女性問題に取り組むNPO法人が主催した連続講座の内容をまとめたもの。実際に働く

女性の体験談も紹介され、パワハラが現代社会の構造的問題であることが浮き彫りにされる。女性が働く場で遭遇してきたたくさんの不条理に対抗する手立てを示し、快適な職場環境づくりの一助となる貴重な意見が詰まっている。

◆ 1260円・A5判・95頁・フェミックス・東京・2008/3刊・ISBN978-4-903579-14-6

『人類やりなおし装置』 ●岡田淳著



戦争、環境汚染、交通事故、不正やいじめ…悪いニュースばかりの世の中を救うため、発明家の教授が立ち上がった。その名も“人類やりなおし装置”。本書は初出が1984年1月号の「日本児童文学」。単行本化にあたり、大幅に改稿はしたものの、20年以上前に書かれたとは思えないほど、その内容はタイムリー。気まぐれな教授に振り回される助手の一人称で書かれた、イラストが

豊富なノベライズ版。特別な波を出し、全てを植物に変えてしまう装置で、世界を花と緑でいっぱいにし、人類に平和をもたらそうと目論む教授だが、果たしてどんな結末が待っているのか? ユーモアたっぷりでありながら、世界を取り巻く問題について考えさせられる。

◆ 1470円・四六判・79頁・17出版・兵庫・2008/5刊・ISBN978-4-9900645-5-6

『医聖 野口英世を育てた人々』 ●小椋山六郎著



無数にある野口英世の偉人伝とは異なり、本書では、野口博士の人間形成に大きな影響を与え、様々な支援・援助を惜しまなかった内外30名以上の人々にスポットを当てて紹介する。「ぼろをまともう俊敏な目をした左手の不自由な少年が目についた」(要約)と、子ども時代の野口を見いだした故郷猪苗代の小学校教師・小林栄。終生変わることはない理解者であった。上京した野口を

世界へと羽ばたかせた歯学者の血脇守之助、米国の医学者フレクスナー教授…。たぐいまれな才能に加えて語学の天才、なにごとにも物おじしない積極的な野口に魅せられ、一流・本物の人たちがまわりに引き寄せられて、野口英世を押し上げていったということでもあろう。

◆ 1575円・四六判・250頁・歴史春秋社・福島・2008/4刊・ISBN978-4-89757-704-3

売行良好書

期間：2008年6月16日～7月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (2)『林 達夫・回想のイタリア旅行』1890円・イタリア書房 (3)『中国低層訪談録』4830円・中国書店 (4)『欧米人の見た開国期日本』2625円・風響社 (5)『大切な食べものを無駄にしない本』840円・ベターホーム出版局 (6)『目でみるブラジル日本移民の百年』2000円・風響社 (7)『いまなぜ精神分析なのか』2520円・洛北出版 (8)『生きたい!!!』1300円・リーブル出版 (9)『トモニイコウ。』1500円・アートヴィレッジ (10)『驚きの手話「ハ」「ポ」翻訳』2625円・星湖舎 (11)『人類やりなおし装置』1470円・17出版 (12)『サイン』1500円・濤標 (13)『いつか春が』1785円・不知火書房



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『東京かわら版 7月号』420円・東京かわら版 (2)『モツ煮狂い 第2集』504円・平成鳥有堂 (3)『よみがえる熊本城』1260円・碧水社 (4)『フォトグラフ「熊本城」』1470円・熊本日日新聞社情報文化センター (5)『旅のかばん Vol. 1』300円・旅のかばん編集部 (6)『昭和プロレスマガジン15』1000円・昭和プロレス研究室 (7)『よみがえる滝山城』735円・揺籃社 (8)『日本の名城』1680円・碧水社 (9)『あなたが「最近ブックオフに行かなくなった理由」を考える』210円・出版評論社 (10)『野宿野郎 5号』500円・野宿野郎

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『人間の潜在能力 気の開発メソッド』2100円・合気ニュース (2)『東京かわら版 No. 414』420円・東京かわら版 (3)『広告批評 No. 326』590円・マドラ出版 (4)『出来事のポリテクス』2940円・洛北出版 (5)『林 達夫・回想のイタリア旅行』1890円・イタリア書房 (6)『本の雑誌 No. 301』840円・本の雑誌社 (7)『昭和プロレスマガジン 15』1000円・昭和プロレス研究室 (8)『旅のかばん 1』300円・旅のかばん編集部 (9)『モツ煮狂い 第2号』504円・平成鳥有堂 (10)『J A R I S 遠隔操作論』1575円・ノベル出版

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★★

▼『あなたはこの本を知っていますか』今年も当センター取扱図書目録『あなたはこの本を知っていますか』No.24ができてきました。2007年1月から12月までに刊行された新刊、およびこの期間に新規取引した出版社の在庫のある刊行図書を収録しています。取扱出版社住所録や既刊・近刊書の広告も掲載。定価 735円。

▼『エンジェル』が誌名変更
 演歌・歌謡専門誌『エンジェル』が8月25日発売の9月号より誌名が『ミュージックスター』に変わる事になりました。また、定価も750円から850円に変更になります。誌名変更前最後の『エンジェル』の8月号の表紙・特集はいま話題の黒人演歌歌手ジェロです。

▼三省堂で地方出版社フェア
 8月1日から9月上旬までの間、毎年恒例となっている三省堂書店神保町本店4F地方出版社フェアが開催されます。場所は4F上りエスカレータ前で、北海道から沖縄まで全国津々浦々の出版社の作品1200冊ほどが展示されます。

郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
 - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
 - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター
 FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

